

# 三杉川の住人たち～ トウキョウダルマガエル



7月4日（日）、三杉川沿いの水路で、ひときわ目立つ**緑色**のトウキョウダルマガエルを見つけた。**トウキョウダルマガエル**の体色は、個体ごとに様々で、緑色系から灰褐色系、茶褐色系のものもいる。しかし、写真左側のような真緑の個体はあまり見かけない。右側の**茶褐色**の体色の方が標準的だろう。また、**背中**の中央に**ライン**をもち、黒い斑点が独立していて重ならないことが、トウキョウダルマガエルの特徴である。

ところで、この写真の2匹、人が近づいてもあまり逃げようとしなかった。人に慣れているわけでもなく、むしろ、ふてふてしいという感じだ。実は、このトウキョウダルマガエル、かつては「**殿様蛙**」と呼ばれていた。大型でいかめしい体つき、悠然とした動作は、まさに殿様の名にふさわしいのであろう。しかし、現在は、分類学上、トウキョウダルマガエルは**トノサマガエル**とよく似ているが、**別種**とされている。トウキョウダルマガエルの分布域は関東地方、仙台平野、信濃川流域などで、トノサマガエルは、それらの地域と北海道を除いた全国各地に分布している。つまり、分布域は全く重なっていないので、少なくとも関東地方で「殿様蛙」と呼ばれていたカエルは、すべてトウキョウダルマガエルなのである。

かつては、水田のカエルとして、どこでも目にするのできた普通種であったが、全国的に**減少が著しい**とされている。栃木県でも、場所によっては、水田でよく見かけるカエルではなくなってきた。現在、佐野市の水田で最もポピュラーなカエルは、西日本からの移入種である**ヌマガエル**（1999年に初めて佐野市で発見された）となってしまった。三杉川の流域でもヌマガエルの数は圧倒的だが、これほどりっぱなトウキョウダルマガエルたちが、ひっそりと、しかし悠然と暮らしていることは驚きである。かつての殿様たちの心意気のようなものを感じた。